

安護の浦港(阿佐地区) AGONOURA PORT



安護の浦港(阿佐地区)は、座間味島の東側に位置する地方港湾であり、主に地元小型船が利用している。

本港は、昭和47年に沖縄県管理の地方港湾として指定され、平成元年に港湾区域の変更が行われた。これまでに、防波堤、物揚場、船揚場等が整備されている。



平成 15 年 6 月

港湾関連用語解説

●マリーナ marina

プレジャーボートの利便に供することを目的とする港湾のこと。プレジャーボートの係留、保管、その他のサービスを提供する。

●プレジャーボート

スポーツ又はレクリエーションの用に供するヨット、モーターボート及びその他の船舶。

●ボートパーク

放置艇の大部分を占める小型モーターボートを主たる対象に必要な最小限の施設や機を備えた簡易な係留・保管施設。運河、水路等の既存の静穏水域を活用して整備される。



平成 8 年 11 月



凡例 現状 水域施設(継続) 外郭、係留施設(継続) 水域施設(計画) 外郭、係留施設(計画) 陸地(計画)

安護の浦港(港内地区) AGONOURA PORT

安護の浦港(港内地区)

位置図

座間味島 屋嘉比島 阿嘉島 慶留間島 久場島 外嶋島 渡嘉敷島

港	格	地方港湾(避難港)
港湾管理者		沖縄県
所在地		座間味村(座間味島)
面積		813ha
設立年月日		昭和47年5月15日
港湾区域変更状況		平成元年4月19日

安護の浦港(港内地区)は、座間味島の東側に位置し、避難港として位置づけられている。

本港は、昭和47年に沖縄県管理の地方港湾として指定され、平成元年に港湾区域の変更が行われた。これまでに、500G/T級船舶用の避泊ブイ4基が整備されている。



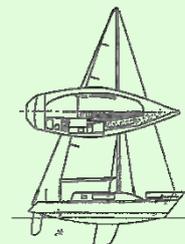
平成 15 年 6 月



昭和 52 年 6 月

港湾関連用語解説

- クルーザーヨット
帆が主な推進機関であり、キャビンを有しており、一般に補助動力としてエンジンを有しているもの。
- ディンギーヨット
帆が主な推進機関であり、キャビン及び補助動力としてのエンジンを有していないもの。
- クルーザーモーターボート
エンジンを主な推進機関とし、キャビンを有するもの。
- ランナバウト
水面を滑航するプレジャーボートで吃水が浅く、エンジンを主な推進機関とし、操縦席は開放型であるもの。



クルーザーヨット



ディンギーヨット



クルーザーモーターボート



ランナバウト

船浮港(船浮地区) FUNAUKI PORT

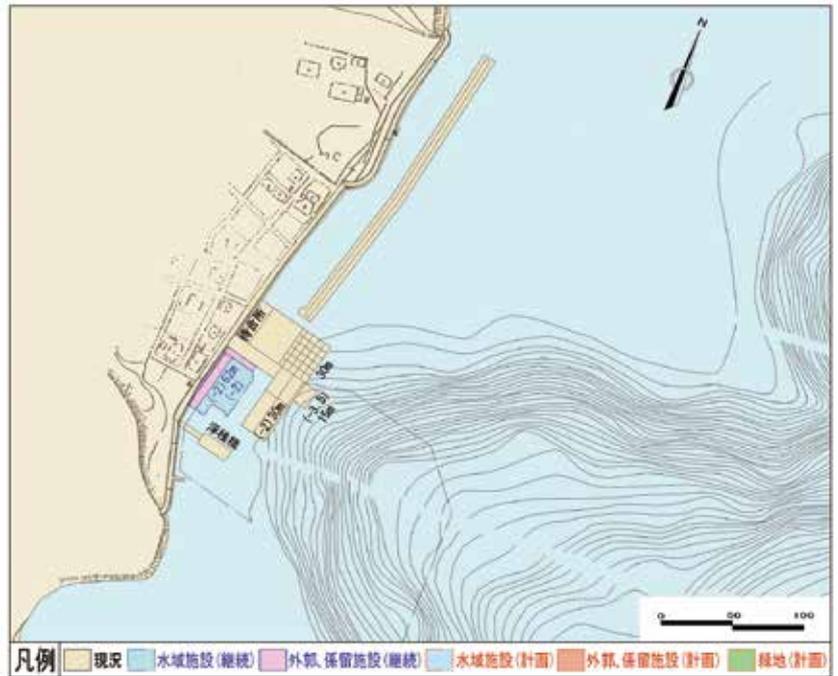


船浮港(船浮地区)は、西表島の西側に位置する地方港湾であり、西表島白浜港との間に定期船が就航しているほか、観光船や地元小型船が利用している。

本港は、昭和47年に沖縄県管理の地方港湾として指定され、平成元年に港湾区域の変更が行われた。これまでに、物揚場や船揚場の他、定期船に対応した浮棧橋や待合所等が整備されており、現在は、施設不足を解消するため、物揚場の増設やフェリー用船尾岸の整備が進められている。

【定期航路】

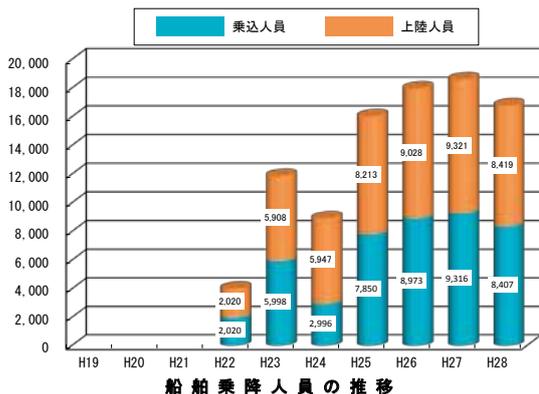
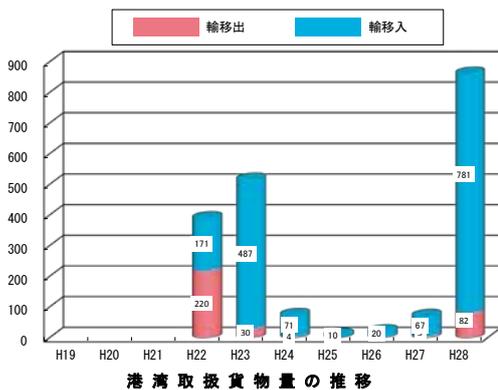
- ◇旅客船 船浮/白浜 5便/日(3月~11月)
4便/日(12月~2月)
- [ニューふなうき 176/T]

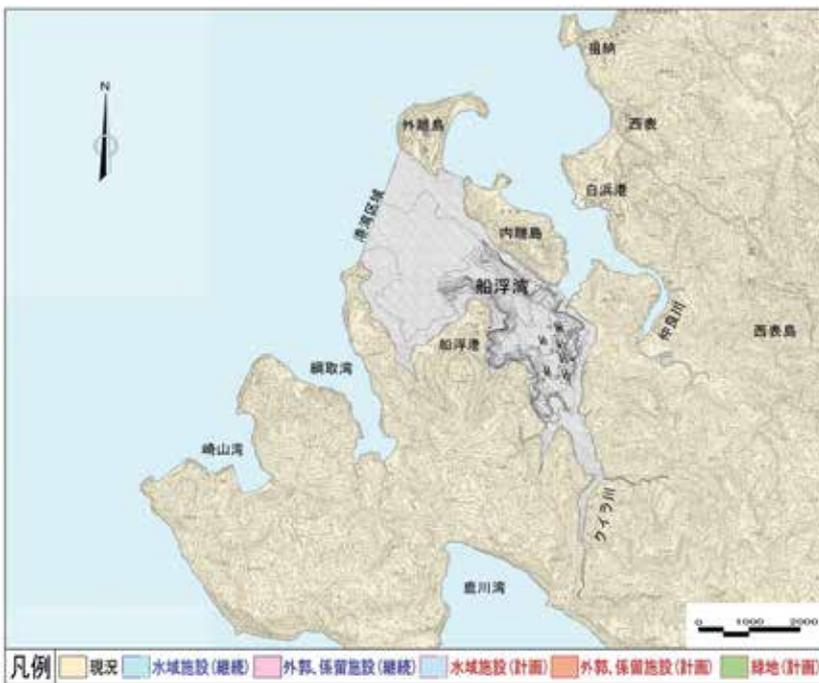


平成18年11月



平成27年11月





船浮港(港内地区) FUNAUKI PORT

位置図

港	格：地方港湾(避難港)
港湾管理者	沖縄県
所在地	竹富町(西表島)
面積	1,150ha
設立年月日	昭和47年5月15日
臨港区域変更状況	平成元年4月19日

船浮港(港内地区)は、西表島西側の船浮湾全域であり、古くから避難港として利用されている。

500D/W級から1,000D/W級船舶のための避泊ブイ6基が整備されている。



平成 18 年 10 月



昭和 52 年 6 月

港湾関連用語解説

●フレートトン

港湾統計における貨物のトン数。容積は、1.113立法メートル(40立方フィート)、重量は1,000キログラムをもって1トンとし、トン数は重量又は容積においていずれか大なる方をもって計算する。

●バース berth

港内で荷役などを行うために船舶が停泊する岸壁、棧橋等の係留施設において、船1隻分が占める水域。船席ともいう。

●きつ水 draft:draught

船舶等の水面下部分の深さ。

●ノット Knot

船の速度、海上風速などを表す単位。1時間に1海里(約1,852メートル)進む速さを1ノットという。

●PFI Private Finance Initiative

民間資金活用事業。公共施設等の建設、維持管理、運営等を民間の資金、経営能力及び技術能力を活用して行う手法。

■来間・前浜港(来間地区) 浮棧橋・待合所

来間・前浜港(来間地区)は、観光遊覧船、ダイビング、地元漁船等が多く利用しており、これらの施設を整備することにより、地元住民及び観光客の利便性や快適性の向上が図られている。



■黒島港 浮棧橋

黒島港は、石垣港との間に定期旅客船が就航しており、これらの施設を整備することにより、観光客及び地域住民の利便性や快適性が向上し、観光客増大等による観光及び離島振興が図られることが期待されている。

■鳩間港 浮棧橋・旅客待合所

鳩間港は、対岸の船浦港(上原地区)を經由する定期旅客船が就航しており、浮棧橋、屋根付き通路及び旅客待合所が整備されたことにより、観光客及び地域住民の利便性や快適性が向上し、観光客増大等による観光及び離島振興が図られることが期待されている。



■白浜港 浮棧橋

白浜港は、船浮港との間に定期船が就航しており、これらの施設を整備することにより、観光客及び地域住民の利便性や快適性の向上が図られている。